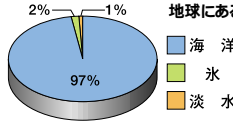




みんなの暮らしと「水」には、深い関係があるんだ。

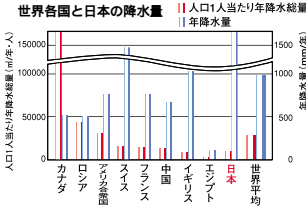
使える水はほんの少し

地球は「水の惑星」といわれているけれど、そのほとんどは海の水で、飲むには海の水と氷以外、淡水はほんの少ししかありません。地球上にある水の97%は海洋、氷、淡水で、私たちが使えるのは淡水のうちの約1%しかありません。川や湖や地下水は、ただだから、水はむづかしいです。川や湖をよこさないように心がけよう。



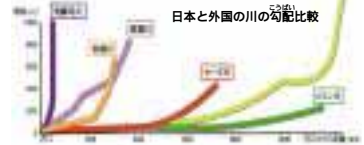
日本の降水量のとくちよう

日本は雨の多い国で、一年間の降水量は約1500mmで、世界平均の約2倍だけだ。



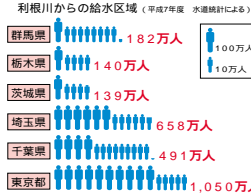
短くて急な日本の川

日本の川のとくちようは、川のながく、ながさが短く、そして高いところから低いところへ一気に流れ落ちるというところだ。そのため、日本の川は大雨が降ると洪水になりやすく、その水はすぐ海に流れて出てしまふ。たとえ、利根川の上流のダムから流れてくる水は、海へ流れ出るの約約三日間しかかからないんだ。



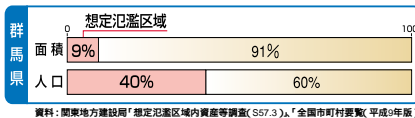
関東の水を支える利根川

群馬県には利根川という大きな川がある。みんなが飲んでいる水の多くは利根川から取水された水で、この水は群馬県だけでなく、栃木県、茨城県、埼玉県、千葉県、東京都の人たちも飲んでいるんだ。なんと、日本の人口の約五人に一人分の飲み水を利根川が支えていることになるんだ。

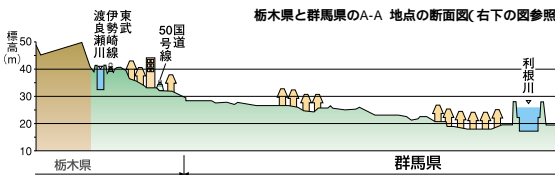


低い土地は洪水の危険

私たちは、その人口の半分近くが、川が洪水になる時の水の高さより低い土地に住んでいて、常に氾濫の被害を受けるおそれがある。全国で約50%の人口が、群馬県では40%のひとたちがその危険にさらされているんだ。今から約四十年前の一九四七年(昭和二十二年)九月の力強い台風では、水害による被害が関東全域におよんで、約三十二万の家が水にかり、三千五百人もの死傷者を出した。



想定氾濫区域の面積と人口の割合
 想定氾濫区域とは洪水の時の川の水位より低い土地



日照りが続くとかつ水に

日照りが続き、ダムの水の量が少なくなると、水不足の状態になる。水不足は私たちの毎日の暮らしにもたらすんだ。農業生産や工業生産にも大きな被害をもたらすんだ。データによらず首都圏では二年から三年に一回の割合で、水不足が起きて断水、減水が起きた状況が発生していることわかった。

